

## 真恒（太刀）

「真恒」は、久能山東照宮に初めて寄進された刀である。初代徳川将軍の家康公が亡くなった翌年、その息子である秀忠公（1579-1632）が、久能山東照宮の竣工に合わせて奉納したものである。

この刀は優れた品質のものである。12世紀に、刀鍛冶の名産地である備前地方（現在の岡山県）で作られたものである。現存する最古の備前の刀工集団によるものと考えられている。100cm近くあるのでかなり長く、戦闘用ではなかったようだ。鎌倉時代（1192-1333）の刀の特徴である厚くて重い刃を持ち、バランスが良い。

例年、約1ヶ月間展示されている。

国宝